

◆ うどんこ病 ◆

第一次伝染源に対する防除としては休眠期から落花直後までの黒星病及び赤星病防除対策として通常の定期散布が行われ、この際、本病に対しても有効なDMI剤、QoI剤やSDHI剤などが使用されるので、本病のみを対象にした防除は不要である。むしろ例年本病の発生が認められる園では、梅雨明け後～収穫期頃の二次感染時期に重点をおいて薬剤防除を行う。薬剤は下表の中から選択するが、ベルコート水和剤及びベルコートフロアブル以外の薬剤系統は薬剤耐性菌出現リスクがあるので、年間使用回数はそれぞれの系統を含む薬剤の使用回数を2回以内とする。また、収穫前日数を考慮し、なるべく収穫直前まで使用できる薬剤から選択する。

うどんこ病防除剤

薬剤系統	薬剤名	使用濃度	収穫前日数
DMI剤	アンビルフロアブル	<u>1,000</u> ～2,000	7日
	インダーフロアブル	<u>5,000</u> ～12,000	7日
	オーシャイン水和剤	3,000～ <u>4,000</u>	前日
	オンリーワンフロアブル	<u>2,000</u> ～4,000	前日
	サルバトーレME	3,000	21日
	サンリット水和剤	2,000～ <u>4,000</u>	7日
	トリフミン水和剤	2,000～ <u>3,000</u>	前日
QoI剤	アミスター10フロアブル	1,000	前日
	ストロビードライフロアブル	2,000～ <u>3,000</u>	前日
	スクレアフロアブル	2,000～ <u>3,000</u>	前日
SDHI剤	アフエットフロアブル	2,000	前日
	フルーツセイバー	<u>1,500</u> ～2,000	前日
	ネクスターフロアブル	1,500	前日
	パレード15フロアブル	<u>2,000</u> ～3,000	前日
混合剤 (QoI+ SDHI)	ナリアWDG	2,000	前日
グアニジン剤	ベルコート水和剤	<u>1,000</u> ～1,500	14日
	ベルコートフロアブル	1,500	14日

注、アンダーラインの濃度は推奨する防除する際の使用濃度